茨城 全県版
©日本建設新聞社(2017年)
日刊(日、月、祝翌日休刊)
(昭和49年9月30日 第3種郵便物認可)

日刊建設新聞
The Nikkan Kensetsu Shimbun

11月17日金曜日
平成29年 第9466号

発行所
日本建設新聞社
水戸総局
水戸市南町2－5－24
電話 029－227－4551㈹

エコファルトが環境大臣表彰受賞

関東道路（武藤正浩代表取締役）が「平成29年度廃棄物・浄化槽研究開発功労者表彰」で環境大臣表彰を受賞した。今回の受賞は、同社が開発した再生合材「エコファルト」を活用することによって「地域完全循環型リサイクルシステム」を構築し、溶融スラグの最終処分費削減を実現したことが認められたため。また、同事業はこれまでに3Rの推進功労者として22年国土交通大臣賞を受賞している。ひとつの事業でふたつの大臣賞を受賞するのは、全国的に見ても例を見ない業績だという。武藤社長に受賞のポイントなどを聞いた。

関東道路の武藤社長

環境ビジネスで地域に貢献

―事業の概要を

エコファルトは、可燃ごみ処理の際に排出される溶融スラグを再生アスファルト合材として再利用するもの。15年に事業をスタートし、17年には県のリサイクル建設資材の第1号として認定された。溶融スラグの最終処分には年間約1億5000万円の費用がかかるが、エコファルトとして再利用することによって費用を軽減できる。特にこの数年は、筑西広域市町村圏事務組合からでる溶融スラグの全量を引き取っているため、最終処分費はゼロとなり、約6億円もの処分費削減を達成している。今回の受賞は、エコファルトの研究・開発が、学術的にも3R事業として認められたことに加えて、この事業が実用的に使用でき、かつ広範囲で成果を収めた成果だと思う。

―開発の経緯は

筑西広域市町村圏事務組合が新ゴミ処理施設を整備する際に、溶融スラグのリサイクルについて打診を受けたのがきっかけ。私は薬剤師の資格を有しており、理系の視点から面白いと感じ、建設業と産廃業の中に環境を取り入れたビジネススタイルを確立していこうという発想で仕事を引き受けた。その後、国で定められた規格に合うよう、工場内で舗装などの実験を実施し、2年の開発期間を経て実用化に至った。

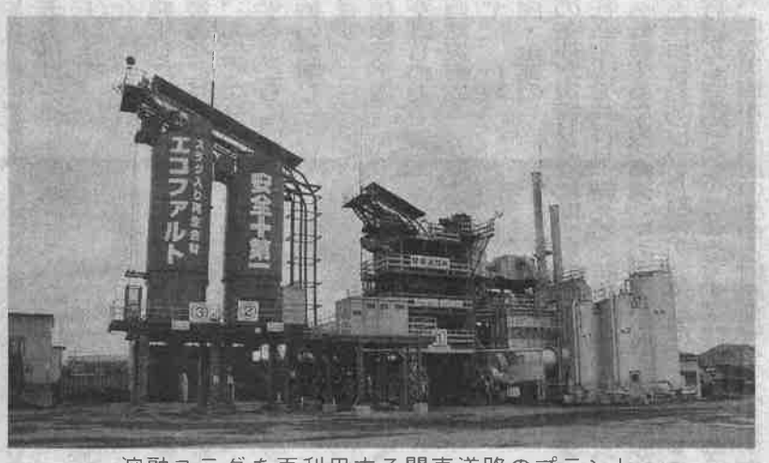
―事業の特長について

全国的に見れば実用化している会社はいくつか存在するが、長続きしていないのが現状。この事業を継続的に実施するためには、官民が一体となった取り組みが必要になる。いくら企業が努力しても、行政の理解がなければ事業の成功には繋がらない。例えば、舗装工事の設計書において、リサイクル材の使用を指定するなど、行政側の努力も求められている。

―エコファルト使用に求められる技術は

単に工事をするだけではなく、常に地域環境に貢献するのが目標。環境ビジネスはこういう時代だからこそ、さらに新しい取り組みをしていかないと地域にとってプラスにならない。10年前にはわからなかった問題がどんどん出てきている。土木舗装を中心としながらも、環境ビジネス業という形で将来に進んでいきたい。

率は、筑西市と結城市においては、国補補助の工事を除いて100%採用されている。ただし、現状では交通量の多い県道での使用は認められていない。これはエコファルトが他の合材に比べて劣化が早いことが理由になっている。しかし、この事業を開始して10年以上になるが、エコファルトが他の合材と比べて劣っ



溶融スラグを再利用する関東道路のプラント

【プロフィール】
昭和33年9月30日生まれ、59歳。昭和大学薬学部卒。関東道路の代表取締役に加え、城東商事、和田長建設などの代表および役員を兼任する。趣味は旅行。